

秋田内陸縦貫鉄道を活用した地域活性化に関する調査研究「報告書」

別紙資料

低速走行列車「ゆっくり秋の里山号」運行報告



2013年1月

公益財団法人 東北活性化研究センター
株式会社 フィデア総合研究所

低速走行実験列車「ゆっくり秋の里山号」概要

報告書提言にある「里山をのんびり走る観光列車」が実際の商品として成立するのかを調べるべく、モニター客が同乗した低速走行実験列車を運行した。

1. 実施日時

平成24年11月19日(月) 9時20分～15時10分

2. 実施目的

秋田内陸線の車窓風景を、低速走行するお座敷車両でゆっくりと楽しむ列車の商品化の可能性を探るための実験走行

3. 運行区間

角館－阿仁合(61.2km)の往復(計122.4km)

4. 所要時間と速度

所要時間 往路(角館－阿仁合)1時間50分
復路(阿仁合－角館)2時間40分

平均速度 往路 33km 復路 22km

※場所により速度は変わり、最低5km～最高50km
(トンネル内は一定の通過時間を超えると警報が鳴るため通常速度)

5. 実施スキーム

主催 くまのたいら企画(代表 大穂耕一郎)

共催 秋田内陸縦貫鉄道 株式会社

特別協賛 公益財団法人 東北活性化研究センター

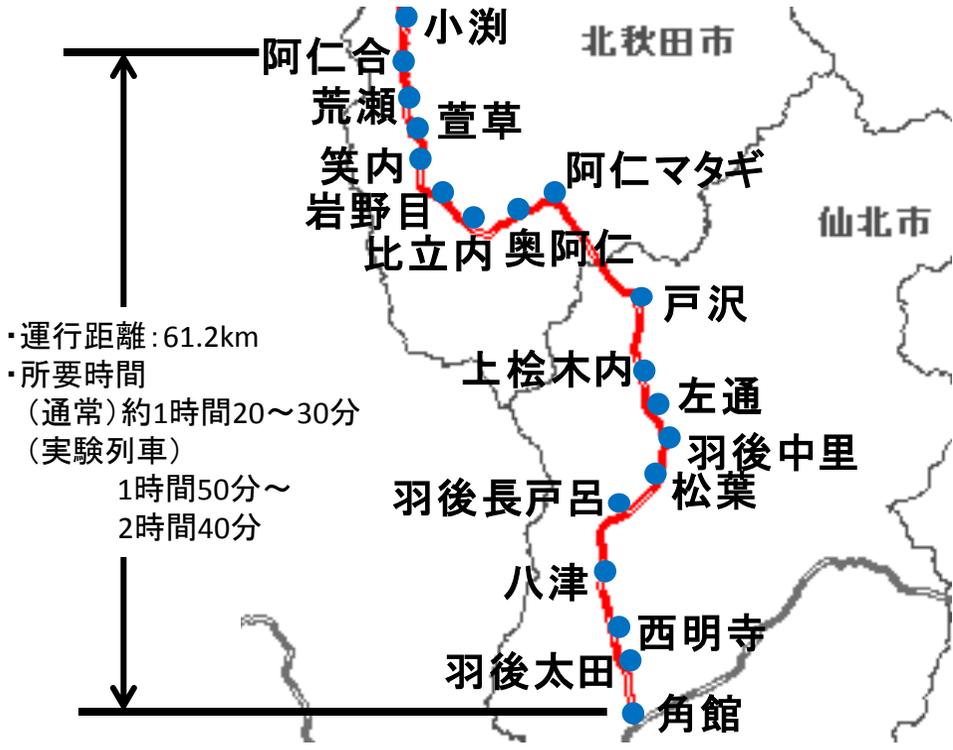
6. 乗客

計 31名

①モニター 17名*

②関係者 14名

注:2歳児1名も乗車したが、モニターとしてはカウントせず。他、マスコミも2社乗車。
また、モニター客にはアンケートに協力頂いた。



総括(商品性についての検証結果)

低速列車は里山の風景を楽しむ旅行商品として魅力がある。価格は4,000円程度が妥当。
試行段階ではイベントが多い、座席が座りづらい等の問題が指摘されたため改善により商品性を高める必要あり。

○商品としての魅力は十分

(低速走行列車の商品性)

- ・最大の検討課題である速度については、ちょうどよいとの評価が得られた。また、低速だからこそ楽しめる景色(運転士しか知らない絶景スポット、車内からしか見えない滝など)が魅力であることが判明した。
- ・よって、「ゆったり景色を楽しむ列車」は、内陸線の旅行商品として十分に魅力があると言える。

(価格)

- ・アンケートから価格設定は4,000円程度が望ましい。

○内容はおおむね好評だが要改善項目あり

(イベント)

- ・車内・車外で実施された各イベントとも評価は高かった。
- ・ただし、下車時に実施したフットパスは、希望者やターゲット毎の時間・内容設定への配慮が必要であることが明らかになった。
- ・また、今回は検証企画のため盛りだくさんだったが、「ゆっくり風景を楽しみたかった」との意見が複数あり、配慮が必要である。

(食)

- ・イベントと同様に盛りだくさんだったが、包装にまで気配りをしたおやつの評価が非常に高かった。
- ・昼食は、弁当で一部食材の食べにくさが指摘されたが、おおむね好評だった。

(キャラクター)

- ・内陸線キャラクター「森吉のじゅうべえ」をサプライズで登場させたことが大評判となった。よって、イベントでの更なる活用とともに、ぬいぐるみ等の商品開発など、新たな展開を検討すべきである。

(車両設備への意見)

- ・使用したお座敷列車について、座りやすく改良すべきとの意見が多数を占めた。窓をもっときれいにして欲しいとの要望もあった。
- ・本運行時には車両を替えることを検討する。

(安全確保)

- ・フットパス実施時の安全確認、散策時の注意喚起など、最低限の安全確保が必要との指摘があった。

(低速運行における運転士への負担)

- ・低速走行は乗客には好評だが、運転士に多大な負荷をかけることも判明。改善策を検討する必要あり。

行程と内容の概略(往路)

所要時間1時間50分、平均時速33km。

写真 事務局(以下、全て)

かくのだて 角館	9:40発	角館ー西明寺間は通常走行
うごおおた 羽後太田	停車	西明寺ー八津間は低速走行 時速は約15km
さいみょうじ 西明寺		列車交換待ち
やっ 八津		栗菓子、お茶など差し入れ。
うごながとろ 羽後長戸呂		鉄橋の上で徐行して景色を楽しむ。ややゆっくり。
まつば 松葉		羽後長戸呂通過後、秋田弁で昔語り。 (語り:藤原まりさん 田沢湖語りの会)。
うごなかざと 羽後中里		
さどおり 左通		
かみひのきない 上桧木内		
とざわ 戸沢		十二段トンネル(戸沢ー阿仁マタギ間)で半夜灯。 サミット付近でトンネルの入口と出口を見つめる。
あにまたぎ 阿仁マタギ		
おくあに 奥阿仁		
ひたちない 比立内		
いわのめ 岩野目		
おかしない 笑内	5分停車	ホームで駅名標と車両を入れて記念写真撮影。
かやくさ 萱草		
あらせ 荒瀬		
あにあい 阿仁合	11:30着	阿仁合でミニミニフットパスツアーを実施(約20分)



行程と内容の概略(復路)

所要時間2時間40分、平均時速22km。

あに あい 阿仁合	12:25発	
あらせ 荒瀬	列車交換待ち	
かやくさ 萱草		
おかしない 笑内		
いわのめ 岩野目		
ひちない 比立内		
おくあに 奥阿仁		
あにまたぎ 阿仁マタギ		
とざわ 戸沢		停車
かみひのきない 上桧木内		列車交換待ち
さどおり 左通		列車交換待ち
うごなかざと 羽後中里		
まつば 松葉		
うごながとる 羽後長戸呂		
やつ 八津		
さいみょうじ 西明寺		
うごおおた 羽後太田		
かくのだて 角館	15:05着	

低速走行 時速25km程度。弁当配布。



記念撮影①
徐行する列車を乗客を含め車外から



「じゅうべえ」が追いつき出迎え。再び見送り



低速走行。
十二段トンネル内だけ安全規定に従い
通常走行。

がっこ(漬け物)の差し入れ。



アテンダントによる内陸線クイズ
記念撮影②
徐行する列車を乗客を含め車外から



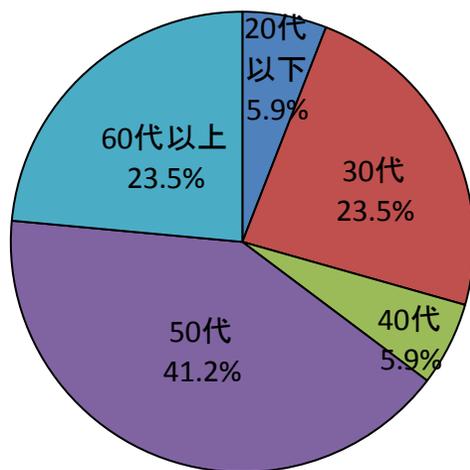
参加者で商品化に関する意見交換
アンケートの記入



モニター客の構成

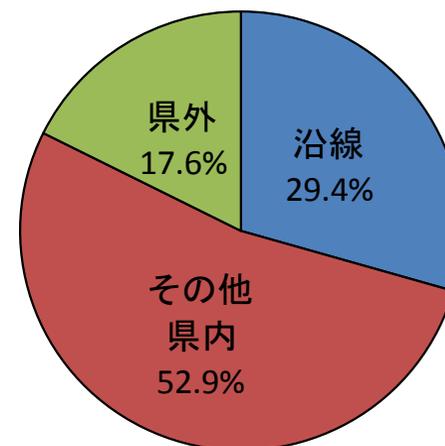
モニター客17名は、50歳以上で6割以上を占め、中高年客主体となったが、幅広い年代からの参加が得られた。住所は県内(沿線+その他県内)が8割。県外は3名で、札幌、東京、横浜から。

モニター客の年齢層



n=17

モニター客の住所



n=16

注: その他、2歳児も1名乗車(モニターとはカウントしていない)

内容別の検討

速度

モニター客は低速走行に全員が満足。低速ゆえに風景を堪能できるという、企画当初のメリットを感じた客が大半。ただし、運転士への負担が大きく、本実施に向けては負担軽減策の検討が必要。

<実施内容>

- ・内陸線の最大の特徴である長距離に渡って展開される里山風景を堪能してもらうことを目的に、最低15km程度のゆっくりとした運行を実施した。

<モニター客の評価>

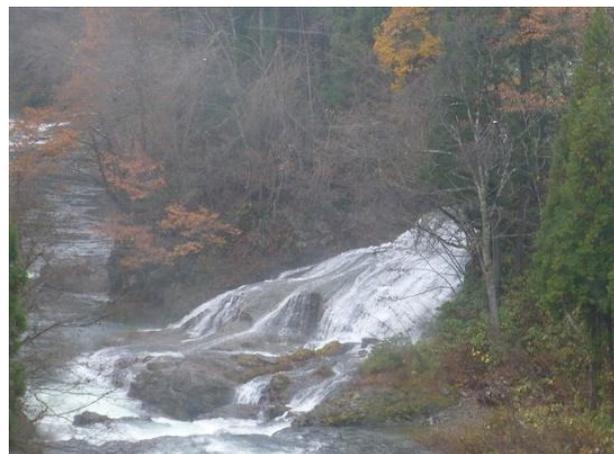
- ・速度は、全員が「ちょうどよい」と評価。

○評価点

- ・「これまでになくゆっくり景色を堪能できる」、「長時間乗っていても外の景色がながめられるので飽きない」(アンケート)など、低速ゆえに風景を堪能できることへの評価が高い。
- ・運行途中、内陸線キャラクター「森吉のじゅうべえ」が内陸線と併走するサプライズがあった。これについて、「じゅうべえが併走することで、スピードの違いがより分かった」との声があった。



低速走行時は、「ゆるキャラ(森吉のじゅうべえ)」が走ると追い抜かれるほど遅かった。



低速ゆえにじっくり見ることのできた風景
写真は内陸線車内からのみ見ることのできる滝

○要改善点

- ・低速走行は乗客には好評だったが、運転士への負担（疲れ）が想定以上であることが判明した。
- ・この背景には、アクセルの入切を繰り返すことで低速走行（15km程度）を維持するために、通常の何倍もの操作が要求されるためである。
- ・今後も低速走行の企画列車を継続する場合には、運転士の負担軽減のための対応策を検討する必要がある。



低速走行は運転士には極度の負担（緊張感と速度調整作業の連続による疲労）を強いることが分かった

イベント① 民話の語り

「魅力的な語りだった」など好評。

ただし、より語りを堪能できるような補助資料の検討や、トンネルなどの場所によっては音量に配慮することも必要。

<実施内容>

- ・田沢湖語りの会 藤原まり氏による沿線の民話の紹介と手話を交えた童謡が披露された。

<モニター客の評価>

○評価点

- ・民話の実施は全17名中16名が適しているイベントと評価。
- ・「語りが魅力的だった」、「ゆっくりなので走行音も気にならず、お話に集中できた」(アンケート)などの声が多かった。

○要改善点

(マイクの使用)

- ・語りの音については、9割弱が聞き取れていたが、1割が聞き取れないことがあったとしている。具体的には、「トンネル内で少し聞き取りにくかった」という意見であり、音量調節に配慮すべきである。

(補助説明資料の必要性)

- ・「東北のなまりを聞きとれない人のために、ある程度の解説があると良いと思う」との意見もあった。



語りの様子

イベント② 十二段トンネルでの半夜灯

好評。ただし、席によってトンネル出入り口が見えづらいなどの意見があり、見せ方には工夫が求められる。

<実施内容>

- ・十二段トンネルは内陸線の名所の一つ。阿仁マタギー戸沢間にある全長5,697mのトンネル。一直線のため、頂上付近では入り口と出口を車両の前後から確認することができる。
- ・今回は、運行規定上、トンネル内は通常速度での通過だったが、車内灯を暗くする半夜灯としたことで、十二段トンネルの入り口・出口の見え方を堪能してもらうことをねらった。

<モニター客の評価>

○評価点

- ・アンケートでは興味深い演出だったとの評価が大半(回答者16名中15名が「興味深かった」と回答)。
- ・「遠くに出口が見えるのが幻想的。車内が暗い分見やすかった」との声。

○要改善点

- ・「四人がけで窓際の場合、体を乗り出して見ることに躊躇があり、堪能できなかった」「立って見ている人がいて見えなかった」との声も。
- ・通過時間が長いため、見たい方を見やすい位置に案内するなどの対応策の検討が必要である。
- ・上記に対して、運行後、関係者から、以下のような案が出た。
前後の窓が小さいこと、誰かが立ち上がってみると他の人が見えないことから、通路の真ん中天井などに鏡を設置し、どの席からでもトンネル出入り口の様子を堪能できるようにすべきではないか。



十二段トンネル通過時は車内灯を半夜灯にして、前後に見えるトンネル入り口・出口の明かりを堪能してもらった。



直線のため、出入り口を一度に眺めることができる。

イベント③ 記念撮影

おおむね好評。内陸線キャラクターとの撮影がよかったとの声が大半。

<実施内容>

- ・笑内駅での5分停車を利用して、ホームで駅名標と車両を入れた記念撮影を実施。そのほか、車外からも撮影が可能なかを試みた。
- ・笑内駅での記念写真は即座に印刷し、復路で参加者に配布した。

<モニター客の評価>

- ・笑内駅での撮影は有効回答16名中14名が「あったほうがよい」と回答。
- ・車外からの記念撮影は有効回答15名中12名が「あったほうがよい」と回答

○評価点

- ・「旅の記念にあった方がよい」など、好評。また、内陸線キャラクター(ゆるキャラ 森吉のじゅうべえ)とともに撮影できたことにも高評価。ゆるキャラとの撮影は子供も楽しめるとの指摘も。
- ・「車内で写真を渡してもらえて嬉しかった」と、帰りまでにプリントを渡されることへの評価の声も聞かれた。

○要改善点

- ・天候により車外撮影が難しい場合の対応が必要との意見が出た。



笑内駅にて駅名標、車両、「森吉のじゅうべえ」とともに笑顔で記念撮影



車外からも記念撮影が可能なかを試みた

イベント④ ミニミニフットパスツアー

大半が評価。ただし、内容を高く評価する客には実施時間が短く感じられ、さほど興味がない客にはちょうどよい時間だったため、参加自由のオプションとすることや、ターゲット毎に時間と内容を変える必要がある。また、案内マップの用意と共に、行程中の安全確保には注意を払うべき。

<実施内容>

- ・阿仁合到着後、「ふるさと阿仁観光案内人の会」によるミニミニフットパスツアーを実施。
- ・阿仁合駅前からわずか20分ほどだが、阿仁の鉱山としての歴史、寺院の由来等の説明が行われた。

<モニター客の評価>

- ・アンケートでは、実施時間について、17名中10名が「短いので長く」、7名が「ちょうどよい」とし、評価が分かれた。
- ・内容については17名中9名が「よかった」、6名が「ふつう」であり、大半が評価。
- ・時間と内容の評価をクロス分析すると、内容を高く評価する客には時間が短く、さほど興味がない客(内容回答が「ふつう」+「別の過ごし方がよかった」)にはちょうどよい時間と判断されていることが分かった。

○評価点

- ・感想としては「大変興味深く聞けました」「歴史を知ることができた」などの好意的な感想が大半。

○要改善点

- (補助資料) 案内マップが欲しかったという指摘が複数。
- (案内方法) 「案内が聞き取れなかった」「ゆっくり歩きたかった」という指摘あり。「グループ分けをする」ことも検討する必要あり。
- (安全確保) 釘を踏んだ客がいたことから、行程の安全確保とともに、簡単な治療セットの用意が必要であるとの指摘があった。



2名の案内人の先導で阿仁合駅前を出発。



鉱山の歴史、町並みの変遷を説明



前日の強風で落ちた銀杏の葉による美しい里山の景色を発見。これもフットパスツアーの醍醐味。

イベント⑤ 内陸線クイズ

空き時間の活用として半数ほどが評価。

<実施内容>

- ・内陸線に関するクイズ(全5問)を実施。

<モニター客の評価>

- ・アンケートでは有効回答11名全員が評価。

○評価点

- ・「空いた時間を埋めるためにはちょうどよい」「意外な答えもありよかった」との評価。



アテンダントが出題

イベント⑥ ゆるキャラの登場

内陸線のキャラクター「森吉のじゅうべえ」の神出鬼没の登場は評価がとても高かった。登場の度に車内が湧いたことから、「じゅうべえ」のキャラクターとしての価値は高いと考えられる。

<実施内容>

- ・内陸線のキャラクター「森吉のじゅうべえ」が駅や区間に突然登場するサプライズの演出を実施。

<モニター客の評価>

- ・モニター客には大変好評であり、登場するたびに車内は沸いた。握手や記念撮影も頻繁に行われた。
- ・モニターアンケートにキャラクター登場に関する設問はなかったが、自由記述欄に複数の記述が見られた。

- 例 「じゅうべえが所々に登場するのが楽しい」
「(じゅうべえが)走って列車を追い越すパフォーマンスはとても良かった」
「キャラクターのお出迎え、一緒に写真撮影は記念になる」
「じゅうべえ君も愛嬌があり良かった」



(往路)笑内駅



(往路)笑内駅記念撮影



(復路)比立内駅



(復路)比立内駅 停車中の車内



(復路)戸沢一上桧木内間



(復路)角館駅

注:ほか、上桧木内一左通間にも出没

食① おやつ

味、包装も含めた「もてなし」に高評価。ただし、一部で量が多いとの指摘あり。
飲み物については、ツアー中いつでも飲みたいという意見も。

<実施内容>

- ・西明寺栗をはじめとした地域特産品を活用したお菓子を、往路出発(9:40)の約20分後(10:02ころ)に配布。包装にも気を配り、おもてなしを演出。
- ・がっこ(漬け物)は昼食後の13:50頃に配布。

<モニター客の評価>

○評価点

(お菓子)

- ・アンケートでは「おいしい」が17名中14名、「まあまあ」が3名と、高評価。
- ・味は「小さいものがたくさんで食べやすい」「手作りでとても美味しかった」との声。特にたい焼き(りんごとあんこ入り)への評価が高かった。
- ・包装の工夫などのもてなしについては「心のこもった内容であった」「見た目にもこだわっていてとても良い」と高評価。

※がっこのアンケート項目は無し。自由記述でも言及は少ない

○要改善点

(量)

- ・自由記述はほぼ好意的な意見。
- ・関係者からは、おやつ、がっこ共に量が多いとの指摘。

(飲み物)

- ・飲み物については、モニター客から「がっこは飲み物がないと多い」「飲み物はツアー中いつでも飲めるとよい」との意見があった。



(上)きれいに包装されたお菓子

(下)中には盛りだくさんの地元特産品を活用したお菓子。



昼食後に提供されたがっこ。

食② 弁当

おおむね好評。ただし、食材の大きさ、食感への指摘があった。

<実施内容>

- ・東北のブナ林を代表する「ぶなかのか(ブナハリタケ)」をメインとした全てを地場の本物にこだわった弁当を提供。

<モニター客の評価>

- ・アンケートでは、味は「おいしい」+「まあまあ」で9割弱(有効回答16名中14名)。
- ・量は「ちょうどよい」が9割弱(同上)

○評価点

- ・「キノコがたくさん入っていてヘルシーでおいしかった」、「秋田の味が堪能できて良かった」、「豪華さには欠けるが素朴でよい」との評価。
- ・弁当に貼付された食材の説明資料について「食材の説明があり親切」との評価。

○要改善点

- ・ぶなかのかの特徴的な歯触りに対して、「もそもそして舌触りが悪かった」「食べにくい」との指摘。
- ・「鶏肉の切り方が中途半端で食べづらかった」との指摘も。
- ・関係者からは、「揺れる車内では食材が皆小さくて食べづらかった」との意見。
- ・「いろいろに一工夫が必要」との指摘も。



(上) 弁当外観

(下) もりだくさんの地元食材を使った料理

食③ 馬肉シチュー

クセがなくおいしく食べられると評価が高かった。

<実施内容>

・阿仁合駅「こぐま亭」シェフが開発した馬肉シチューを、カップに入れて提供した。

<モニター客の評価>

・アンケートでは「おいしい」が14名、「まあまあ」が3名と、全員が好意的に評価した。

○評価点

・「馬肉がクセ無くおいしく頂けた」など、くせのある馬肉をおいしく食べられることへの評価が高かった。おかわりや、土産にも購入したモニターもいた。なお、モニターの子供(2歳児)にも好評でおかわりが注文された。

○要改善点

・「ビーフシチューを馬肉にしたらだけ、もうひとひねりが欲しい」との指摘も。



その他の指摘事項

お座敷列車の座り心地への不満は圧倒的。トイレも要改善の声。車内でのアテンダント等による説明については、ゆったりと車窓風景を堪能できるような配慮(ヘッドセット型マイクの導入や通路を移動しながらの説明、分量への配慮)が必要とされた。

○お座敷列車の掘りごたつ形式の座席は要改善

- ・アンケートでは、掘りごたつ形式の座席について、「座りにくい」という回答が圧倒的に多かった。
- ・また、荷物を置く場所、コートを掛ける場所などへの要望もあった。
- ・そのほか、窓をもっときれいにして欲しいとの指摘もあった。
- ・以上から、車両を替えるという選択肢の検討も必要である。

○トイレについて

- ・乗客からの指摘はなかったが、関係者からはトイレについて2点の指摘があった。
- ①途中下車の阿仁合駅では女性トイレに長蛇の列ができた。よって、女性トイレは更なる充実が求められる。
- ②車両のトイレについては、今回の使用は少なかったものの、走行中の揺れの中での和式は使いづらいことから、洋式トイレの導入が必要である。

○車両内での説明について

(音量)

- ・トンネル内などではエンジン音で声が聞こえづらいケースがあり、状況に応じた音量調節が必要である。

(説明する位置)

- ・進行方向前方からの説明が大半であり、狭い掘りごたつ形式では背中越しの説明となってしまった。これが聞き取り難さに結びついたと考えられる。よって、周囲の反応を見ながら移動して説明をするなど、状況に応じた配慮が必要である。

(マイク)

- ・今回はハンドマイクの使用であったが、関係者からヘッドセット型のマイクを導入すべきとの意見が出た。理由として、語りの後に実施された童謡の手話パフォーマンスや、その他イベント時の資料を提示する際などに、マイクを持つ補助員が必要なケースがあったためである。

(説明の分量)

- ・ゆったりと風景を楽しむためには、アテンダントの説明が多すぎたとの指摘もあった。

○報告書の提言内容（報告書P.35抜粋）

<特徴的な車両の具体的考察 >

（目的）

- ・内陸線を観光客に「知ってもらう」「乗ってもらう」こと
- ・内陸線が訴求すべき「里山風景」を堪能できること

（コンセプト）

里山をのんびり走る観光列車

- ・急ぐ旅と一線を画し、内陸線の魅力である「日本一の里山風景」をゆっくり見て、感じることのできる旅を提供。
- ・運行は生活利用と切り離れた観光利用に限定。
- ・のんびり走る観光列車は全国各地にあるが、「長距離にわたってのんびりと里山を走る」観光列車は見あたらないため、他のローカル線と差別化が可能。
- ・角館駅利用の県外客を想定することから、観光地が多く、かつ所要時間がそれほど長時間にならない角館から阿仁合までの61.2kmで運行する。
- ・里山文化とのふれあいを可能にするオプションも検討する。
- ・将来的には、さらに里山を堪能できるような車両改造も検討する。

左記提言について、
今回は、内陸線で既に保有している改造車両「お座敷列車」を用いて、

①「のんびり」

②「里山文化とのふれあいを可能にするオプション」

を検証する企画列車として運行された。

内陸線webサイトでの告知(右参照)に加え、秋田県内及び首都圏へのマスコミへの投げ込み、鉄道ファン関係への情報提供が行われた。

人気は上々であり、締め切り前に定員を超えたため、募集を打ち切った。

トピックス

低速走行実験列車「ゆっくり秋の里山号」乗車モニター募集

2012年 11月 01日 カテゴリトピックス

おかげさまで募集定員に達しました。ありがとうございました。(11/6)

秋田内陸縦貫鉄道では、**運行スピードの遅さを楽しむ「ゆっくり秋の里山号」**をくまのたいら企画と共催で実験的に実施することとなりました。

通常は時速40～80km程度で運行している列車を、一部区間時速5～30km程度で運行してみようとするものです。

実験列車では、止まってしまいそうなくらいの速度での車窓風景の印象、時間がたつぷりある車内での過ごし方などについて検証し、低速走行列車が旅行商品として成立するかどうかを見極めようと考えております。

このたび、この実験列車へ参加する乗車モニターを募集いたします。

» 実施日時

平成24年11月19日(月)9:20～15:10 角館駅集合・解散

» 企画内容・行程

[こちら\(PDF\)をご覧ください](#)

» 使用車両

お座敷車両(AN8808)

» 料金

無料

